

亜急性硬化性全脳炎における髄液麻疹抗体価陽性基準の検討

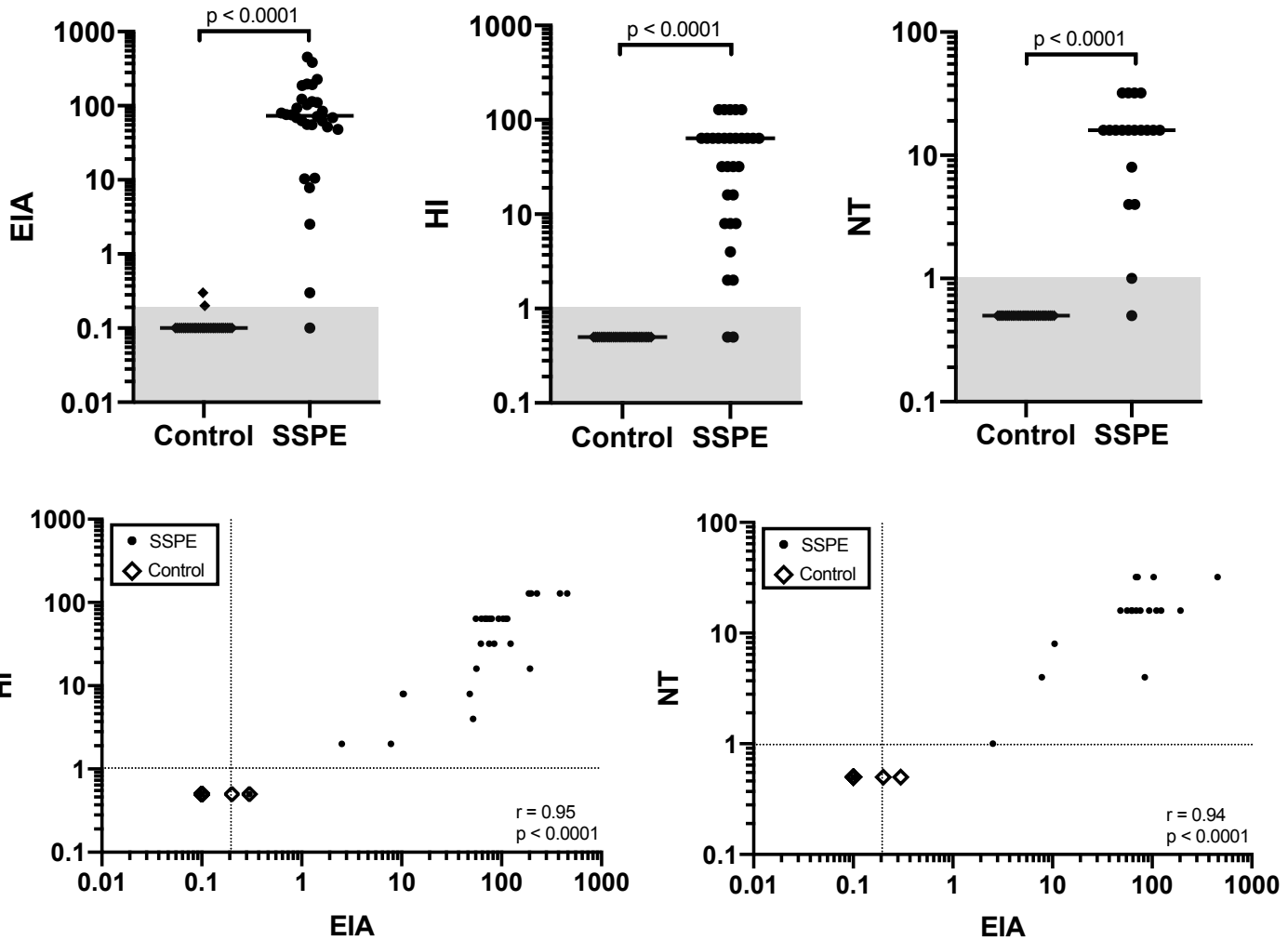
研究分担者：山口大学大学院医学系研究科医学専攻小児科学講座 長谷川俊史

研究協力者：山口大学大学院医学系研究科医学専攻小児科学講座 松重武志

鼓ヶ浦こども医療福祉センター小児科 市山高志

Department of Pediatric Neurology, Hacettepe University Faculty of Medicine

Banu Anlar



解説

1. EIA法は他の検査法に比して感度が高い。
2. EIA法では、SSPE群のほとんどは測定上限（12.8）を超える高値だが、陰性～境界域を少数認め、疑わしい症例は再検査が必要である。
3. 一方、対照群でも境界域を示す症例を認め、偽陽性を避けるためにはEIAのカットオフ値を0.4以上にする必要がある。